



【発信日】令和3年6月10日

【問い合わせ先】

大野市役所（1階10番窓口）

くらし環境部環境・水循環課 山本・北村

電話 0779-66-1111 内線1603

## 完成！『自然ふれあい探検隊』の隊員バッジ

～ 奥越明成高校の生徒がオリジナル缶バッジを作りました ～

標記のオリジナル缶バッジが下記のとおり完成しましたので、お知らせいたします。

### 記

1. 完成品 自然ふれあい探検隊の隊員バッジ
2. 用途 令和3年度から新たに取り組む「自然ふれあい探検隊事業」への参加賞として無料配布する
3. 製作者 奥越明成高校 ビジネス研究部 16人
4. 作成数 160個 全12種類
5. 自然ふれあい探検隊について
  - (1) 目的 ○豊かな自然環境とのふれあいと発見  
○健全な水循環に関わる人材育成
  - (2) 対象 市内小学生とその家族
  - (3) 内容 大野市にある自然環境（山・森・川・湧水地・動植物など）のふれあいと発見を行う体験的な環境教育
  - (4) 令和3年度の実施予定
    - (第1回) 6/12（土） 「ガサガサ探検」ほか（真名川水辺の楽校）
    - (第2回) 8/1（日） 思いっきり川遊びほか（打波川・下打波付近）
    - (第3回) 9/11（土） 生き物の巣作り&下水処理センター探検（真名川水辺の楽校 ほか）



## 自然ふれあい探検隊『隊員バッジ』について

■概要 「自然ふれあい探検隊」事業への参加者に対し、参加賞「隊員バッジ」として、オリジナル缶バッジを配布する。

■協力 奥越明成高校（ビジネス研究部）の協力の下、デザイン考案及び製作を行う。

### ■制作の経過

5/21 メインイラスト（4種類 ai データ）を市が奥越明成高校に提供

5/22～6/2 奥越明成高校にてデザイン案を考案

部員 16名 1人1メインイラストにつき1デザイン案

⇒4種類×1デザイン案×16名 =64案

6/3 デザイン案 完成 市職員にて選考

1メインイラストにつき、3デザイン案を選考

⇒4種類×3デザイン案 =12種類

6/5～6/7 缶バッジ制作 製作数160個

6/8 奥越明成高校から市に納品

### ■缶バッジについて

#### メインイラスト

- ・自然ふれあい探検隊の受託事業者が作成
- ・市にて、真名川に生息する魚のうち、代表的なものや珍しいもの、形などが特徴的なもの、水文化的な要素のあるものをそれぞれの生息域からまんべんなく抽出し、選考

市域内の生息域	上流域	←	中流域	→	下流域
選考した魚	①イワナ		②アジメドジョウ		③アユ ④アブラハヤ

#### 全体デザイン

- ・メインイラストの大きさや配置、使用数のほか、背景の色や「自然ふれあい探検隊」の字体など、全体デザインを奥越明成高校にて考案
- ・缶バッジの規格などは、直径44mm、安全ピンタイプ。
- ・使用する文字 「メインイラストの魚の名称」、「大野市」又は「onocity」又は「ONO」
- ・12種類のほか、1メインイラストにつき1デザインずつ、「シークレット Ver.」あり。  
※全160個のうち、144個が通常 Ver.、16個がシークレット Ver.

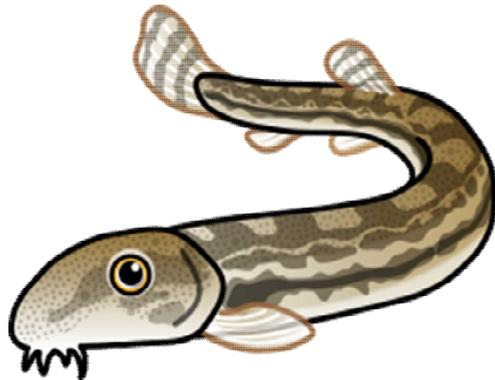
### ■自然ふれあい探検隊について

- ・「豊かな自然環境とのふれあいと発見」及び「健全な水循環に関わる人材育成」目的に実施する、自然ふれあい体験型の環境教室
- ・市内小学生とその家族が対象 ※バッジは小学生のみに配布
- ・令和3年度は「水辺の自然」をテーマに3回開催  
（第1回）6/12（土） 「ガサガサ探検」ほか （真名川水辺の楽校）  
（第2回）8/1（日） 思いっきり川遊びほか （打波川・下打波付近）  
（第3回）9/11（土） 生き物の巣作り & 下水処理センター探検（真名川水辺の楽校 ほか）

①イワナ



②アジメドジョウ ドジョウ科



## イワナ

*Salvelinus leucomaenis* (Hilgendorf)

サケ目・サケ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

### 選定理由

全国的に生息環境の悪化や釣獲圧等により減少している。福井県においても、大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。なお、本県は亜種レベルでは「ニッコウイワナ」の分布域とされるが、遺伝的研究の余地があるため種レベルの「イワナ」とした。

### 種の特徴

全長は普通 30 cm程度であるが、大きいものは 60 cmを超える。体色は主に暗褐色で、白色斑点のほか橙色や黄色等の斑点もみられるが変異が大きい。水温が約 15℃以下の河川の最上流域に生息し、水生昆虫や魚類を食べる。

### 分布

北海道及び本州に分布する。本県では、九頭竜川水系・笙の川・北川・南川等の上流域で確認されているが、南川は移入されたものとされている。

### 生息を脅かす要因

砂防ダム等の河川横断工作物による移動の阻害、川岸の護岸や水質の悪化等の生息環境の悪化、過大な釣獲圧等が挙げられる。また、他地域からの放流個体により、確実な在来個体群は著しく減少している。

参考文献 福井県編 (2002)、環境省編 (2016)、中坊編 (2013)、川部部ら (2006)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○		○	○		○				○	○	○

出典：福井県 HP「福井県レッドデータブック データベース」

## アジメドジョウ

*Niwaella delicata* (Niwa)

コイ目・ドジョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

### 選定理由

ダムや砂防堰堤等の工事で本種の生息環境が悪化し、生息地・生息数とも減少傾向にある。

### 種の特徴

全長 8 cm。体形は細長く、背鰭・尻鰭は体の後方にある。口は下面にあり吸盤状の唇を持つ。口髭は短く 3 対。河川の上流～中流域の早瀬～平瀬に生息し、岩やれきの付着藻類を主に食べる。

### 分布

中部地方～近畿地方にかけて分布する。本県での分布は九頭竜川・河野川・笙の川水系で生息が確認されている。比較的水量の豊富な河川の上流～中流域の砂れき部に生息する。

### 生息を脅かす要因

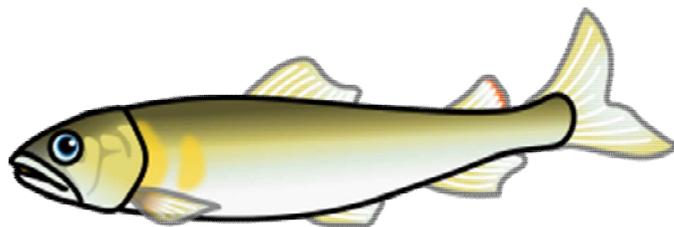
生息域の上部で河川工事等による泥水で付着藻類が泥をかぶり、生息数を減らす。また、川底のコンクリート化による生息環境の破壊も大きな要因と考えられる。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)、中坊編 (2013)、川部部ら (2006)、斎藤・川崎 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○	○	○	○	○	○			○	○	○

出典：福井県 HP「福井県レッドデータブック データベース」

③アユ



アユ                      サケ目・アユ科

特徴

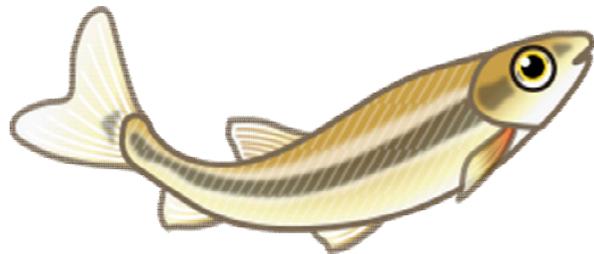
3～5月頃、10 cm位になって海から川へ上ってくる。川では、なわぼりを作り、石の上に生えたコケ（付着藻類）を食べる。1年で全長25 cm程度に成長する。秋、中流から下流で産卵し1年の生涯を終える。孵化した稚魚は流下し海に流れ出し、春まで海で生活する。

全国各地でおこなわれているアユ漁では、なわぼりアユの攻撃性を利用する友釣りや投網をはじめ、伝統的な鵜飼いななど様々な漁法がある。万葉集の中にもアユ釣りを詠んだ歌があり、アユは古くから人間の生活と関わりの深い魚であることがうかがえる。

分布     日本国内では北海道から沖縄まで、また、中国や韓国、さらにはベトナムにも生息している。県内では、県下一円の河川湖沼に広く分布。

参考文献：福井県内水面漁業協同組合連合会 HP、東京大学大気海洋研究所 HP

④アブラハヤ



アブラハヤ                      サケ目・アユ科

特徴

体には小さく黒いはん点があり、体側に一本の黒い線がある。体表面は粘液でヌルヌルしている。2年で全長6～10cm程度に成長する。上流から中流に棲（す）み、水生昆虫や藻類など何でも食べる。流れの緩やかなところが好きで、河川では岸ちかくに群れていることが多い。

分布     本州のみに分布し、太平洋側は青森県から、日本海側は青森から福井県までの各地分布します。県内では、県下一円の河川上流から中流に生息。

参考文献：福井県内水面漁業協同組合連合会 HP、国土交通省松本砂防事務所 HP